はまなし
鶴岡市立西郷小学校　学校だより
令和5年度 第10号（2023．12．25発行）
～家庭・地域とともにある西郷小学校～

西郷学校の物語
なぜ西郷小学校に高橋泥舟の書があるの？

■西郷小学校には誇るべき宝があります。上にある「西郷学校」の書です。書そのものは校長室にあり、彫金を施した書板が、職員玄関に掲げられています。揮毫は高橋泥舟。江戸幕府 最後の将軍 徳川慶喜に仕えた参謀で、将軍に朝廷（官軍）への恭順を促したことでも有名な幕臣です。書には説明があり、「明治２２年９月、清河八郎の墓参りのため、庄内に来た折、当時の村長、善寶寺住職（善寶寺ご住職の水口様にお尋ねしましたところ、三十四世 別傳禅法 大和尚様 とわかりました。日本唯一の「魚鱗一切之供養塔」としての五重塔の落成（明治２６年）にご尽力されたご住職様だそうです。善寶寺の皆様、ご多用中にもかかわらず、ご教示いただき、たいへんありがとうございました。）の依頼によって書かれたもの」であることがわかります。この「西郷学校」の書板は、明治・大正・昭和・平成と連綿とつながる長い歴史の中、数え切れないほどの子たちが入学し、やがて卒業していく姿を見つめ続け、そして、令和になった現在も、昔と変わらず、子どもたちを見守り続けているのです……。

■西郷小学校に育った子であれば、揮毫した高橋泥舟とはどんな人物なのか？彼が墓参り（どうやら２７回忌のようです）に行った清河八郎とはどんな人物なのか？そして、高橋泥舟と清河八郎を引き合わせた山岡鉄舟とはどんな人物なのか？を知っておいてもらいたい……。幕末から明治にかけて日本を動かした３人の英傑が、自分たちの学校と関わりがあると知ることで、「西郷に対する誇りと愛着」を育てられるのではないか……。そう考えて、卒業を間近にした６年生に特別授業を始めて、３年目となりました。

■今回の学校だよりでは、特別授業「西郷学校の物語　なぜ西郷小学校に高橋泥舟の書があるの？」を紹介したいと思います。有難いことに本校の６年生は毎年「歴史好き」です。加えて今年の６年生は、予習・授業・復習で学んだ内容を、タブレットを使って単元毎にレポートにまとめる等、意欲に満ちた集団です。今回の特別授業の話も（担任を通じて）もう知っていて、家庭学習で幕末三舟や清河八郎を進んで予習するだけでなく、中には山岡鉄舟ゆかりの句を調べたり、歴史に詳しい家族に聴いたりと、授業にもとても関心が高かったです。特別授業では３人の功績を紹介しながら、時代背景や国の動きにもふれるようにしましたが、わかってもらえたでしょうか。

【高橋泥舟】・槍の名人　・鳥羽伏見の戦いの後、徳川慶喜に恭順を促し、参謀としてずっと慶喜を側で支え続けた。多くの血を流すことなく政権交代を推し進めたことが最大の功績かと考える。高橋泥舟は人格も高潔で尊敬を集めた。

【清河八郎】・庄内町（清川）出身の志士　・山岡鉄舟らと「虎尾の会」を設立。「急務三策」を幕府に提案し、受理されたことで「浪士組」結成。京都の新徳寺で「浪士組」の署名を集め、同組を尊王攘夷による天皇直属の軍隊に変えてしまう。横浜で攘夷運動を計画したが、その直前に志半ばで暗殺される。

【山岡鉄舟】・清河八郎の同志　・高橋泥舟の実妹の夫にあたる。・低い身分だが、江戸無血開城の事前交渉という大仕事を成し遂げる。西郷隆盛との深い信頼関係は人の胸を打つ。

【西郷学校の物語　まとめに代えて】

■混迷した幕末期～明治維新には、朝廷側・幕府側に分かれて、たくさんの人々が争ったり、議論したりしていましたが、皆に共通するのは**よりよい日本を創ろうとする強い願い**だったと考えています。そうした願いをもった人々の代表として、高橋泥舟は筆を取ったのだと思うのです。つまり、**西郷学校を巣立つ子どもたちから「よりよい日本 や ふるさと」を創っていってほしい！**という先人たちの願いが込められている……と考えていて、そのことを子どもたちに伝えたくて特別授業を続けているのです。